

1aEn ; 講演会 「危機の時代と日欧関係」
- 日米欧グローバル・パートナーシップは可能か

講演 飯村豊 元駐フランス・日本大使
モデレーター 中島厚志・日仏会館理事長 司会 瀬藤澄彦RF会長

最初にRFJ瀬藤会長の挨拶。ルネサンス・フランセーズの歴史的意義づけを最新のパリ本部の情報やRF世界会長ファダ氏の演説を引用して紹介。RFはレモン・ポワンカレー大統領の肝いりで第一次世界大戦が始まった1914年の翌年に誕生。組織の標章やロゴ オリーブの枝葉と平和のシンボルである月桂樹を取り混ぜたもの。ポワンカレーはRFに2つの任務を委託。①フランス語とフランス文化を自由になった占領地域にもたらすこと、②欧州と欧州を越えた世界における平和の樹立とその恒久化と説明。



飯村豊・駐仏日本大使 (2006～2009年)の1時間半に及ぶご講演は、その経験と知見を織り交ぜた誠に、外交の最前線と長年の思索や研究にも基づく考察であり、世界の平和を再構築する上で、現実の国際関係の政治的、軍事的、歴史的、な実態を踏まえた視点から日欧関係も戦略的に冷静に進めていく必要であることを思い知らされた。

中島理事長からはデカプリングという世界経済の秩序に対する新たな分断リスクが立ち現れたと飯村大使のお話を補強されたこともこれからの国際経済を見るうえで大変に教訓になる点ご指摘頂いた。。

主催；ルネサンス・フランセーズ日本代表部 (RFJ)

共催：公益財団法人・日仏会館 協力：パリクラブ、TMF

日時：2024年4月20日 (土) 14時00分～17時00分

場所：日仏会館ホール 東京都渋谷区恵比寿3-9-25

14：00 開場 司会 瀬藤澄彦 RFJ会長

14：30 講演 飯村豊 元駐フランス・日本大使

15：40 モデレーター 中島厚志 日仏会館理事長

16：00 質疑応答

16：30 懇親会 17：00 終了



飯村大使講演

元駐仏日本大使の飯村氏の講演の要旨は以下の通り。明治・昭和の日仏関係、1868年の堺事件、冷戦後の国際会議の曖昧さ、中国・ロシアの大国化、中東危機、米国の指導力の低下、グローバルサウス、などご自身の回想と所見をご披露された。ライシャワー駐日大使以降、日本の地位、欧米以外の国、アフリカ外交、米国一辺倒、フランス外交の対米感覚、シラク時代、国際政治、パワーポリティックス、キッシンジャー外交戦略、など現実外交を日米欧でグローバルにパートナーシップを築いていく必要があると力説された。配布された詳しいアウトラインと適格な資料が大変、役に立ったの声多かった。

中島理事長ご発言

経済の世界の分断、グローバルサウス、日本経済動向、独仏の経済戦略の違い、世界経済秩序の転換、米国大統領選挙の結果予測 「もしトラ」の場合の日米パートナーシップ、フランス見方、など鋭い分析をご披露頂いた。

質問、有識者から下記の意見や質問が積極的になされた。

伊藤さゆり（ニッセイ基礎研究所理事）：世界で遠心力強まる、仏独のぎくしゃく関係、ドイツ経済の不振、EU農業危機、フランスの財政・貿易の赤字、などの展望。

黒田友哉（専修大学教授）：70年代のフランス外交から新たな枠組み。

久米五郎太（パリクラブ元会長）：日仏欧の「軍事同盟」可能性。

飯村大使：QUADとAUKUSと日米韓の多層的協力体制とお答え。

日仏学生フォーラム（大八木）：ポピュリズム、イタリア・メローニや仏ルペンの登場。

高橋衛（元パリクラブ副会長）：国防意識の差。

